

第28回市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成28年3月30日（水）午前11時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（田中円山動物園長） おはようございます。

今日は、年度末のお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、第28回市民動物園会議を開催させていただきます。

2. 挨拶

○事務局（田中円山動物園長） まず、開催に先立ちまして、みどり環境担当局長の酒井より、一言、ご挨拶をお願いいたします。

○酒井みどり環境担当局長 札幌市みどり環境担当局長の酒井でございます。

今、田中園長からありましたように、年度末が押し迫った本当にお忙しい中、委員の皆様にはお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

円山動物園は、平成27年度夏以降、さまざまな動物の死亡事故が続き、非常に厳しい状況に置かれました。この状況をどのように変えていくのかということで、市民動物園会議の委員の皆様にもいろいろとお知恵を拝借いたしまして、改善案をまとめ、それに取り組んでまいりましたが、その道筋がようやく見えてまいりました。

新年度の4月1日から、開園日、開園時間、休園日等、具体的に動き出すものもございます。また、飼育員採用等につきましても、本当に皆様のお力添えがありまして、今、少しずつ前に進み始めているところでございます。後ほど説明の中で詳しくお話をさせていただきたいと思いますが、皆様のお力添えのおかげで前に進めるのではないかと考えてございます。

平成27年度は非常に厳しい状況でございましたが、円山動物園のしっかりとした基盤固めという意味では、ある意味、充実させることができた1年ではなかったのかと思います。

そして、28年度は、円山動物園の基本計画、10カ年計画の最終年でございます。次の10年に向けて円山動物園をどうしていくのかについて、委員の皆様のお知恵をまたお借りしながら、足元を固めつつ、しっかりと前を見据え、次に進んでいける年にしなければならぬと強く思っております。

皆様のお力添えを引き続きいただきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願ひしたいと思っております。

簡単ではございますが、私のご挨拶にさせていただきます。

○事務局（田中円山動物園長） それでは、議事に入らせていただきます。

以降の進行は、金子議長をお願いいたします。

3. 議 事

○金子議長 皆様、年度末のお忙しいところ、どうもありがとうございます。

今、酒井局長からお話がありましたとおり、今回、大変大きく、また、悲しい事故があ

ったわけですが、これに対して、市民動物園会議から12月に提言をさせていただきました。それについて、市でいろいろとご検討いただいていると聞いております。そこで、今回、この会議においては、そのご報告も含めまして、皆さんとこれからの円山動物園のあり方についてご検討をいただきたいというふうに思います。

このほか、来年度等のイベント等に関しましてもお諮りすることとしておりますので、1時間半程度かと思えますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

まず、一つ目の議題は、マレーグマ「ウッチー」の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）に対する提言書の検討進捗状況についてです。

事務局からお願いいたします。

○事務局（三井経営管理課長） 経営管理課長の三井と申します。

座って説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

資料がお手元に配付されているかと思うのですが、A4判横の資料1をごらんいただきたいと思います。

市民動物園会議において、中期的課題としてご検討いただいたのは、ここにあります組織評価のあり方、人材確保・育成のあり方、開園時間または休園日のあり方の三つでございました。

提言内容と進捗の状況をそれぞれ読み上げながらご説明させていただきます。

提言内容といたしましては、獣医療を複合的に担う専門的な組織を新たに設けるべきであるということです。このご提言を昨年12月22日に市長に提言書として交付されております。以降、年明けになりますけれども、これについて検討いたしまして、進捗の状況のところにありますとおり、獣医療体制の強化を図るため、この4月から新たに動物診療係を設置し、獣医師を増員することにしました。

具体的には、昨日の新聞にもございましたけれども、動物診療係の設置のほか、動物診療係等を担当する専属の課長を設け、全体では5名体制で獣医療業務を担います。

それから、二つ目の人材確保・育成のあり方です。

提言といたしましては、受験資格について、現在の高校卒業以下から高校卒業以上に変更するなど、飼育員を希望する者に対して、現状よりも広く門戸を開くべきであるとのこと、動物飼育員の職を現在の現業職員から一般職員に変更すべきであるとのこと、中長期的な視点に立った人材育成プログラムを整備すべきであるとのこと、飼育員の増員を検討すべきであるとのことという4点です。

それを踏まえて、ここにありますように、より高度な専門性を持った飼育員制度への見直しに向けて検討をするということで、動物園や所管部局も含めて検討に着手いたしました。

具体的には、今後、アジアゾウの導入も控えておりますことから、新年度の採用方向について鋭意検討するというところで、しっかりと飼育体制を整えていきたいと考えてい

るところであります。

また、先進的な動物園での研修や関係機関における研究会などへの積極的な参加、大学などと連携した調査研究のさらなる充実など、中長期的な視点に立った飼育員の育成を進めていきます。

それから、三つ目は、開園時間または休園日のあり方です。

ご提言といたしましては、開園時間については一定程度の短縮を図ること、あわせて、現在、冬と設定しております11月から1月の期間については、より適切な時期に延長するよう見直しを図るべき、休園日については、現状に加えて、一定程度の増加を図るということです。

これを受けまして、実際には、動物舎の安全点検や職員の情報共有の拡充や研修も含めまして、開園準備を万全に整えるため、この4月から開園時間を短縮し、休園日の増加を図ることといたしました。広報さっぽろ3月号等で既にご案内をさせていただいておりますけれども、夏の開園時間につきましては、現在の9時から5時から、それぞれ30分短縮させていただき、9時半から16時半までとさせていただきました。また、冬の期間については、11月から1月までとしていたものを2月まで延長させていただき、朝9時半から夕方16時までということで、朝は開園時間を30分遅らせました。

それから、休園日については、毎月第2・第4水曜日、祝日の場合は翌日ということになりますけれども、基本的には月2回の休園日をいただき、その中で、先ほど言ったように、研修や施設の安全点検、看板類の補修等を定期的を実施していきます。

このほか、4月は、ゴールデンウィークを含め、グリーンシーズンの前の準備ということで、4月の第3週の月曜日から金曜日までの5日間連続して休園日を設けさせていただくことにしました。実際に、平成28年度につきましては、4月11日から15日までの5日間といたしました。

また、11月、冬の積雪シーズンを迎えるに当たり、諸準備をするため、休園日を設けさせていただきます。11月の第2週の月曜日から金曜日といたしまして、平成28年度につきましては、11月7日から11日となります。

このようなことから、従来までの年末の休園日3日間と合わせ、平成28年度につきましては、35日間の休園日ということで考えております。

簡単でございますけれども、以上です。

○金子議長 ありがとうございます。

市民動物園会議からは、大きく分けましてこの三つの提言をさせていただいたわけですが、今、それらについてご報告いただきましたけれども、皆さんからご質問等をお願いしたいと思います。

まず、一つ目の組織強化のあり方については、獣医療を複合的に担う専門的な組織を新たに設けるべきであるという提言をさせていただきました。

今ご説明いただきましたとおり、4月から新たに動物診療係を設置するほか、獣医師を

増員することについて検討を進められているということですが、まず、これについてはいかがでしょうか。

前向きに提言を受けていただいてご検討をいただいているのではないかと思います
が、具体的には、4月に係ができて、全員が獣医ですか。

○事務局（三井経営管理課長） 全員が獣医です。

○金子議長 人数ももう決まっているのですか。

○事務局（三井経営管理課長） 動物診療係は、係長以下4人です。

○金子議長 係長も獣医ですか。

○事務局（三井経営管理課長） そうです。

○金子議長 その下に3人の獣医がつくということですね。

○事務局（三井経営管理課長） そうです。

それから、そこを所管する専任の課長も獣医の資格を持った方で、専任の動物診療係を
担当することになります。

○金子議長 獣医師を増員するということは、現在の獣医師の人数から動物園トータルと
して増えるということですか。

○事務局（三井経営管理課長） そうです。

○金子議長 獣医師の方というのは、全員で何人でしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） 課長職を入れると全部で9名になります。

一般職だけを申し上げますと、昨年10月に、まずは、一般職1名を増員させていただ
き、3人から4人にいたしました。そして、この4月からは、そのうち1名を係長にして、
係体制とします。さらに、課長職の獣医師を1名増員します。ですから、10月に1名、
4月に1名というふうに増員が図られているとご理解をいただければと思います。

○金子議長 昨年度と比べると2人増員されたということですか。

○事務局（田中円山動物園長） はい。

○金子議長 わかりました。ありがとうございます。

ほかにご質問等いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、二つ目の人材確保・育成のあり方についてですが、ここでは多くの
項目を提言させていただきました。

高校卒業以下から高校卒業以上ということで、かなり大きな方向の変更ではないかなと
いうようなことがあります。それから、次の現業職員から一般職員に変更するなど、人事
あるいは組織に係る抜本的な提言をさせていただいたのではないかなと思っております。

進捗状況については、今いただいたご説明ではかなり前向きにご検討いただいているの
ではないかなと思いますけれども、ご質問等あればお願いいたします。

○佐藤委員 象の導入は何年でしたか。

○事務局（田中円山動物園長） 平成30年を予定しています。

○佐藤委員 それに向けて、飼育員の増員を予定しているのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 象の飼育だけですと5人から6人の人工が必要になるかと思しますので、それに向けて従来の体制を見直しし、不足する分を新規に採用するというような検討をこれから行っていくこととなります。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○高山委員 提言に四つほど出ておりますけれども、進捗状況が具体的にわかればいかなと思うのですけれども。

○事務局（三井経営管理課長） 年明けからこの三つの課題を検討しておりましたが、飼育員については検討に着手したばかりで、庁内的な大きな意味でのコンセンサスを得ようとしているところです。具体的なことについてはこの会議でご報告したいと思いますが、現段階では具体的なところを申し上げるまでには至っておりません。

○事務局（田中円山動物園長） 一つははっきりしているのは、新年度の採用です。年度が改まれば、平成28年度ですけれども、29年4月1日には新しい制度で職員が採用できるように準備を進めることは明確なスケジュールとしてご理解いただきたいと思います。そして、それに向けての庁内調整などを、今、さまざまな関係部局と行っているというところでございます。

○金子議長 ほかによろしいですか。

○高井副議長 評価と要望です。

まず、評価できる点としては、Ⅰの項目の中で、この提言を踏まえて、獣医師を増員したということに努力していただいたことで、この努力には感謝したいと思います。

要望としては、Ⅱで4点が提言されていて、進捗の状況では3点の回答があって、その照合が不明確な状態になっていることについてです。

この市民会議の機能としては、市役所のあるいは行政的に困難なことであっても、動物園のために必要なことであれば耳の痛いことも提言するという趣旨からすると、提言の中にあつたキーワードである高卒以上、一般職員、増員、人材育成プログラムという4点を外さず、困難に挑戦していただきたいと思います。

人材育成については明確な回答がありますが、先ほど申し上げた三つのキーワードである高卒以上、一般職員、増員についてです。増員については肯定的な回答をいただきました。残る二つの課題について、現段階では抽象的な表現になっておりますので、不退転の覚悟で挑戦していただけたらありがたいと思う次第です。

○金子議長 ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょうか。

今、高井副議長からご提言、要望がありましたけれども、市民動物園会議としては、具体的なキーワードである高卒以上、一般職員、人材育成プログラム、飼育員の増員ということについては、市民動物園会議の総意として、市に間違いなく実現してほしいというこ

とを再確認させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子議長 この部分は本当に要となる場所ですので、動物園会議から再度しっかりやっていただきたいと思いますと思います。

それでは、そのほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 ありがとうございます。

次は、Ⅲについてです。ここについてはかなり具体的な変更について動物園からお返事をいただいております。

一つは開園時間が30分遅くなるということ、そして休園日を設けるということです。

まず、開園時間が今までよりも30分遅くなるということと、また、冬期を1月から2月に延ばし、閉園時間が若干短くなります。

そこで、開園時間が30分遅くなることにつきまして、皆さんからご意見やご質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 次に、休園日についてです。

休園日は、毎月第2・第4水曜日、それから、4月の第3週の月曜日から金曜日、11月の第2週の月曜日から金曜日、12月29日から31日です。このように、具体的に休園日のご提示がありますけれども、ご質問等をお願いしたいと思います。

○後山委員 全体的なことについてです。

開園時間とお休みが変わったということですが、市民の方々の中には間違っ来られる方がたくさんいらっしゃると思いますので、告知はしっかりとされたほうがいいのではないかなと思っています。

もう一つは、私が個人的に好きな夜の動物園についてです。

これは大変人気がありますが、今後どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

○事務局(田中円山動物園長) 毎年、10回程度、土曜日やお盆など、7月から8月、あるいは、去年は9月にも開催しておりました。

ただ、去年の9月は、動物の体調を考慮し、部分的に閉めるところが多くなった時間帯もありました。また、どのぐらいの回数かについてですが、ちょっと時間がありますので、一旦は前回並みの10回をベースにし、期間と開催日数について検討させていただきたいと思っています。

お話のように、大変人気で、たくさんのお客さんが来ていただけるものですから、なるべくお客さんに喜んでいただけるような開催内容にしたいと思っています。ただ、閉園時間を早めようとしております。従来は、閉園時間を5時から9時に延ばしていましたが、若干早く閉めようかなと考えております。この辺も含めて、時間をいただき、検討させていただきたいと思っています。

○後山委員 わかりました。

大変人気のあるイベントですので、ぜひ続けていただきたいと個人的に思っております。

○金子議長 ありがとうございます。

周知はいかがですか。

○事務局(三井経営管理課長) 広報さっぽろ3月号でご案内をさせていただいています。そのほか、ホームページのトップページは4月になってからすぐに変えますけれども、新年度から開園時間や休園日が変わりますというご案内は事前にホームページでさせていただいています。

そのほか、市内あるいは近郊の小・中学校、幼稚園、保育園には、遠足等をご予定される場所もあると思いますので、3月の初めに別途ご案内をさせていただいています。

また、年4回程度発行しています「動物園だより」では、その都度、ご案内をさせていただこうと思っております。今回の開園時間、休園日の変更については、3月に臨時号を出して、別途、ご案内をさせていただきました。

○金子議長 ありがとうございます。

よろしいですか。

○後山委員 はい。ありがとうございます。

○上田委員 今のことに關してです。

当日になって、いわゆる天候次第で来るお客さんが結構いらっしゃると思うのですね。

そこで、例えば、休みの日は地下鉄駅に貼り出す、あるいは、地下鉄の車内で案内していただくなどして、ここまで足を運んでお休みということだけは避けていただきたいなと思います。

これは、市の広報でなさるのか、それとも動物園の広報でなさるのかはわかりませんが、その辺の連携をとっていただけたらなというふうに思います。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○巽委員 休みの広報についてです。

今まで休みが全然なかったもので、市民の方には休みがあるのだということをもっと知ってもらう必要があると思うのですね。

ですから、動物舎の安全点検や職員の情報共有という言葉だけではなく、こんな事を休みの日にしています、だから休みができましたということをもっと具体的に伝え、皆さんにわかっていたいただければ、今日はもしかしたら休みかもしれないと調べていただける機会が増えるのではないかなと思います。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

私からも申し上げます。

やはり、今お話があったとおり、休みがないと思っている方に、休みができたというこ

とを広報することは結構重要なのかなと思います。結局、休みがないと思っている方は、わざわざホームページなどを開かないかもしれないのです。ですから、そういう方にどういふふうに広報するかは非常に重要です。ですから、地下鉄駅の上り口のところに今日はお休みですという案内があったほうがいいのかと思います。わざわざここまで歩いてきて、閉まっているとなると、来ていただいた方に申しわけないと思います。

また、最近、海外からの観光客の人とかも増えていると思いますので、旅行者、あるいは、バスやタクシーなどの会社にカレンダーなどをお配りして、今日は休みだということをお伝えすることも必要かと思います。パックツアーなどで動物園が休みの日に動物園観光を入れられていたら大変なことになってしまいますし、タクシーでもわざわざここまで来て休みでしたからといって帰って、それで料金を取られるとトラブルにもなりそうだと思います。

ですから、市内の児童生徒、あるいは、市民の方向けの広報も大変重要ですけれども、観光客に向けてどういふふうに広報するかについても少し考えていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○高井副議長 この後に恐らく来園者状況の話があると思うのですが、今回、休園日を50日近く設けたことにより、大体1カ月分くらいの開園日が減るために、短期的には来園者の数が減る可能性があると思います。そのため、今後の長期計画の中では、来園者の数のみで動物園のパフォーマンスをはかることについては、場合によっては再考が必要かもしれないということをご考慮いただければと思います。それ以外に、動物園が市民に対して開かれていたり、貢献していたりなど、来園者の数や収益だけでははかれないものを考慮して長期計画を立てていただけたらと思います。

また、提言に対する回答としては、先ほど申し上げたように、Ⅰについては十分回答していただいていますし、Ⅲも十分回答していただいたと思ひまして、その点では動物園会議として感謝したいと思います。

他方、Ⅱについては、先ほど申し上げたように、キーワードに対して具体的な回答としては不十分だと思いますので、できましたら、次回の会議までにもっと具体的な回答を用意していただければと期待する次第です。

○金子議長 ありがとうございます。

ちなみに、次回はいつぐらいを予定されますか。

○事務局（田中円山動物園長） 基本計画の再検討のスケジュールに絡みますので、全般的なお話をさせていただきます。

まずは、前回の会議でも申し上げたのですが、今の動物園の基本計画は平成28年度までのおおむね10年の計画でした。ですから、平成29年度からは、新たな基本計画を立ち上げる必要があります。その検討は、当然、市民動物園会議の場で皆さんからご意見をいただきながら立案してまいりたいと思っております。

その中で、来園者の数についてです。

具体的に申し上げますと、休園日が3日から35日に増えました。そうすると、営業日数は1割減ります。休園日は平日がメインになりますから、10%も落ちることはないと思いますけれども、どういう入り込みを見込むかというようなことも一つの要素として基本計画の検討に反映させていただきたいと思っております。

そこで、今回の会議は、今の予定ですけれども、6月ごろにお願いしたいと考えています。Ⅱの人材確保・育成のあり方ですが、今ご指摘をいただいたように、今日の段階で皆さんにこうなりますよというようなことをすぐにお示しできる段階ではございません。それについてはお詫びを申し上げなければならないところですが、今、関係部局などと調整を進めておりますので、6月のときにはここまで進んだというようなご報告ができるかと思えます。ただ、そのときも100%ではないかもしれませんが、逐一、進捗状況をご報告できるようにしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○金子議長 今、高井副議長からもお話がありましたように、Ⅱに対する回答はこのままでは具体性がないということについては私も全く同感です。そこで、先ほど言いましたように、市民動物園会議の総意として、ここについてはきちんと実行していただくとか、推進していただくようにお願いをしたいと思えます。

そこで、市民動物園会議としては、ここについて、再提言というか、提言書という形になるかどうかは別としても、委員会から市長にぜひここはきちりやっってくださいというようなプッシュをするような文書でも出したほうがいいのかなどというように思えますけれども、どうですか。

○事務局（田中円山動物園長） 鋭意検討します。

○金子議長 この会議の委員の皆様からもⅡについては進捗していないのではないかと、ここについてはきちりやっしてほしいというかなり強い意見が出ているというようなことは報告していただきたいと思えます。

また、その内容によって市民動物園会議からどのような形で動いていくかです。6月までには方向性が決まってくるわけですが、この辺の状況については、わかり次第といえますか、皆さんと情報共有ができたほうがいいのかなどと思えます。6月の時点で無理でしたという話になってしまうと、提言したほうとしてもかなり悲しいことになってしまいます。動物園会議は、あくまでも動物園のサポーターであり、動物園にとってよい方向だと思って提言させていただいているところもありますので、私たちから強くプッシュさせていただきたいなと思えます。

ですから、状況がわかり次第、随時、私にご連絡をいただき、皆さんに回すかなど、その辺も含めてご相談させていただきたいと思うのですけれども、どうでしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） まさしく、この提言を積極的に取り入れ、今後の施策に生かしていくことはもちろんのことですけれども、報告できるタイミングが、今申し上げたように、次の6月とかになってしまうのは申し訳ないと思えます。

それで、こちらからの提案といたしましては、お話できるようなことができた段階で議長と副議長に逐一ご報告を申し上げて、必要であれば会議を臨時に設ける、あるいは、文書でやりとりするなどをご相談するというようなことでいかがでしょうか。

○金子議長 よろしいかと思えますけれども、これだけ提言を具体的にさせていただいてる中で、全く認められませんというような結果になってしまっただけでは、それも6月になって、はい、おしまいですというようなことになると、会議としても非常にやり場がなくなってしまうというところもあります。

ですから、何らかのタイミングというか、できるだけ早い時期に、このところをいい方向に持っていけるよう、事務局と動物園会議が相談しながら進めていければいいのではないかと思いますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

○酒井みどり環境担当局長 昨年12月に市長に議長から直接提言をいただいていますし、市長もこれに関しては本当に強い意思を持って進めようと考えられ、我々に指示も出されておりますので、中途半端なことには決してしないで進めていく覚悟で職員一同おりますので、今後もバックアップをよろしくお願ひしたいと思ひます。

○金子議長 ぜひよろしくお願ひいたします。

それでは、ⅠからⅢの全体を通してご質問等があればお願ひしたいと思ひます。

○佐藤委員 Ⅰについて、課長が1人増えると伺ったのですが、組織表を見たら、今までは課が二つなのですね。これが三つになるということですか。

○事務局（田中円山動物園長） 担当課長という位置づけになります。実質的には、今までの飼育展示課ですけれども、それを2人の課長で業務を分けることになります。ですから、課が増えるというイメージではあるのですが、我々の呼び方としては担当課長となります。

○佐藤委員 わかりました。

○金子議長 課自体は、どういうふうになるのですか。

○事務局（三井経営管理課長） 課は二つです。

ただし、二つの課に課長職が3人いることになります。飼育展示課に2人の課長を置いて、仕事を分けるということです。

○金子議長 飼育課、展示課ということではないのですか。名称的にはどういうふうになるのですか。

○事務局（三井経営管理課長） 全体を統括する飼育展示課長、それから、先ほど言いました動物診療係を担当する課長を担当課長として置くということです。

○金子議長 飼育展示課飼育担当課長ということですか。

○事務局（三井経営管理課長） 名称的には、動物診療・ゾウ導入担当課長として、象のことも特命で行います。

○金子議長 それでは、新たに、飼育等と象に関する課長がポストとしてできたということですね。組織としては、飼育展示課ということなのですね。

○事務局（三井経営管理課長） はい。

○金子議長 わかりました。

ほかにいかがでしょうか。

○矢野委員 質問というより提言に近いかと思うのですけれども、ホームページの資料を見ていますと、各事業の想定スケジュールがあり、平成29年の秋は、ホッキョクグマ・アザラシ館工事で、30年の秋にアジアゾウ導入、類人猿館改築ということで、施設がどんどんできてくるのですけれども、果たして飼育員の人材が育っていくかなということをご心配しています。

獣医師については、経験年数がどうかというのはわかりませんが、これで体制が整ったかなと思います。ただ、人材育成が一番大事な部分ですよね。前に小菅参与もおっしゃっていましたが、施設ができたなら、1名なり2名なり、人を必ず増やしていただきたいと思っています。それも気をつけてやっていったほうがいいかなと思います。

○金子議長 ありがとうございます。

今のことについてはよろしいでしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） 恐らく、今のことは飼育員の増員を検討すべきという項目にかかわってくるものかと思いますが、先ほどから申し上げているように、今まさしく関係部局と調整をしています。この際には、象はもちろん、例えば、ホッキョクグマ・アザラシ館について、規模が全然違うものができるというようなことも含め、増員に関しては調整させていただいています。ただ、増員をする際には、平成29年4月の採用を目指して取り組もうとしている新しい飼育員の制度により採用できるよう、その調整もあわせて進めてまいりたいと思っております。

○金子議長 ということは、採用試験を今年の夏や秋のタイミングで行うのですか。

○事務局（田中円山動物園長） それは未確定ですが、いずれにしても採用のタイミングは、平成29年4月としています。

○金子議長 来年4月には新しい制度で採用するということですね。

○事務局（田中円山動物園長） はい。

○金子議長 人数と役職がどういうふうになるかは調整中ということですね。

ぜひ、頑張ってくださいと思います。

それでは、提言書の進捗状況についてはよろしいでしょうか。

○高井副議長 私から最初にかなり厳しいことを申し上げて、議長からも不十分な点は次回に報告せよという話でしたが、今の話を伺う限りだと、ⅠとⅢについては、12月までかなりピンチの状況で、暗い雰囲気の中でいろいろと議論してきたわけですが、前向きに検討され、進捗がかなり見られます。また、Ⅱについても曖昧な部分があるけれども、調整中ということで、明らかにできないまでも、どうやら努力をしてくださっているということです。そういう意味では、ピンチをチャンスに変える方向に向かっているような気がいたしますので、大変だとは思いますが、頑張ってくださいと思います。

す。

また、こうして一連の問題が12月までにあった中で、動物園を縮小せよ、あるいは、潰せという方向に行かず、改善の方向で増員をしたり、前向きに検討していただいている市役所の方向性には会議としても感謝申し上げたいと思う次第です。

○金子議長 全くそのとおりだと思います。

本当にどうもありがとうございます。

ただ、進捗をこれから見守っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題1についてはよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子議長 続きまして、議題2の平成27年度来園者状況についてです。

事務局から説明いただけますでしょうか。

○事務局(三井経営管理課長) はい。

少し絞って説明させていただきます。

資料2の平成27年度に来園者状況でございます。

第24回会議のときに昨年の8月までの来園者状況をご説明しております。そこで、9月以降について、かいつまんで振り返りながらご説明させていただきたいと思います。

マレーグマの死亡事案に対する改善計画の取り組みとして、9月14日から18日までの5日間、園内の点検や職員研修のため、午後から一時閉園をいたしました。遠足などで動物園を訪れるお客様に大変ご迷惑をおかけしたところではありますが、結果的には、この数字にありますように、例年並みの来園となりました。

それから、10月は、下旬の24日に猿山のリニューアルオープン、31日にアフリカゾーンのキリン館の一部オープンということで、例年に匹敵するような6万人のご来園をいただきました。また、11月、12月につきましては、黄色で書いてございますけれども、新施設のオープン効果もあって、例年を超えるようなご来園をいただきました。特に12月は雪が非常に少なかったこともありまして、2万人を超えるご来園になっております。

それから、年が変わった1月でございますけれども、正月三が日の縁起物として、申年にちなんだニホンザルの絵馬を無料配布いたしました。たくさんのお客様にご来園をいただきました。また、企画展については、昨年度の深海生物展のときの盛り上がりは得られなかったわけですが、ここにございますように、ほぼ例年並みの4万9,000人ということで、上々の結果になりました。

逆に2月は、雪まつり期間中に開催するスノーフェスティバルについて、従前の7日間の入園料無料にかえまして、試行的に土・日の2日間だけを入園料無料という取り扱いにさせていただきました。その結果、5,000人余り少なくなり、24年度以降で最も少ない来園者数となりました。

3月につきましては、春休みに入りまして、非常に暖かく、比較的安定した気候になっ

たというようなこともあり、また、学生を対象にした年間パスポートの半額割引を行っていることから、例年並みの来園に近づいている状況であります。

そこで、昨日までの数字でございますが、トータルで97万7,781人となりました。100万人にあと少しのところというような状況なのかなと思いますけれども、昨日までの来園者数を見ますと、1980年度以降で最も多い来園者となりました。

動物園では、先ほどお話をさせていただきました動物園死亡事案への対応ということで、アフリカゾーンの全面オープンを延期しております。それから、安全対策など、いろいろな取り組みを最優先にしていってまいりましたけれども、結果的には、このように多くのお客様にご来園をいただきましたことに心から感謝申し上げたいと思っております。

それから、28年度につきましては、先ほどありました飼育員制度の関係についてもしっかりと検討を進めたいと思います。ⅠとⅢについては動物園が主体的にできることということで、今年度4月にスタートいたしますが、飼育員制度は札幌市全体の人事上の問題もありますので、関係するいろいろなところと一緒にやらなければいけません。そのため、現段階ではああいうような言い方でもございましたけれども、方針としてはきちんとやっていくということを確認させていただいております。しかるべき時期にきちんとご説明させていただきたいと思っておりますので、お約束させていただきたいと思っております。

あわせて、そういうベースをきちんとした上で、市民の皆さんにも安心して楽しんでもらえるよう、後ほど話しますけれども、来年も100万人を目指して努力していきたいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、来園者状況についてご質問等をお願いしたいと思います。

最終的に決定するのは31日が過ぎて、次の日ですか。

○事務局（三井経営管理課長） そうです。

○金子議長 今のところ、98万人程度ですか。

○事務局（三井経営管理課長） 98万人くらいになるかなという見込みです。

○金子議長 これを見ますと、ここ数十年の中ではトップなのですか。

○事務局（三井経営管理課長） 先ほど申しましたように、1980年、昭和55年以降、最も多い来園者数になると思います。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 ありがとうございます。

続きまして、平成28年度予算についてです。

ご説明をお願いいたします。

○事務局（三井経営管理課長） 資料3になります。

歳入と歳出がありますけれども、歳入からご説明いたします。

先ほど来話がありました来園者数でございますけれども、備考に100万人と入れさせていただきますいております。ゴールデンウィークの少し前から第2駐車場で増車になります。それから、新たなシャトルバス運行もあります。また、夏に向けまして、アフリカゾーンの全面オープンがあることから、今年度と同じ100万人を目標として立てております。また、これに合わせて、入園料収入についても今年度と同程度としております。

それから、売店や食堂等の設置に関する使用料、野鳥保護等を動物センターから受託した場合、北海道からいただける傷病鳥獣保護費がありますが、これも同程度としております。

ただし、次の寄附金については、市民や企業からの寄附金収入となりますけれども、アニマルファミリー制度を廃止したことのほか、グッズ販売の落ち込みなどから、企業からの寄附金の減少等がございます。その実績を踏まえて、27年度に比べましたら大幅に少ない金額で予算立てをさせていただきます。

広告料については、アジアゾーンのネーミングライツ、入園券の裏面広告等がございますが、それに加えて、その他の収入で、通常は売店等の光熱水費の費目になりますけれども、新たに園内施設の広告看板の設置使用料を予算計上してございます。両方を合わせると、広告に関係するものでは240万円余りの増収を見込んでおります。

このことから、全体の歳入では、総額3億800万円余りということで、今年度予算に比べると700万円ほどの減を見込んでおります。

次に、歳出についてです。

大きく、動物園の管理運営費、それから、ゴシック体で書いてございますが、動物園の整備費に分けられております。

管理運営費は全体で700万円くらいの増を見込んでおりまして、内訳としましては、動物園の運営や維持管理に係る動物園費、環境教育を普及させる動物園教育普及事業費、北海道に生息する野生動物の繁殖や野生復帰などを行う北海道の野生動物復元推進事業費などでございます。

それから、28年度からの新規事業として、外国人をはじめとしました観光客を増やすためにWi-Fi環境の整備をしておりますけれども、その維持管理、それから、動物園ホームページを多言語化することを内容とした円山動物園観光誘客事業を新たに組み込んでございます。

次に、動物園整備費ですけれども、主に施設の建設にかかわるものでございます。

まず、園内小規模整備費でございます。

これは、改善計画並びに施設の安全点検で対応が必要とされた獣舎関連及びそこにある設備の修繕を行うもので、今年度より大幅な増となっております。

次に、熱帯動物館解体工事費でございますが、アフリカゾーンの全面オープンが28年度に延期になったことによりまして、27年度予算で解体工事をする予定であった一部を28年度に繰り越し、動物の移動、アフリカゾーンの全面オープン以降に解体工事を実施

いたします。右に青字で金額が書いてございますけれども、27年度予算を繰り越し、28年度に執行するというので、別に予算立てをしております。

次の二つでございますが、これは来園者の安心・安全にかかわる施設整備事業です。

一つは、高齢者や障がい者に優しいハートフル園路整備費でございます。安心・安全に園路を散策できるよう、段差や急勾配の解消を図ろうということで、28年度は園路の下にあります給排水管等の劣化の状況などを調査しますが、30年度の工事完了を予定しております。

もう一つは、正門ロータリーの再整備事業費でございます。正門ロータリーに大型バスや一般の乗用車の専用の乗降場を整備して、乗降客の安全性を高めませんが、今年度に設計し、29年度に工事をするというふうな2カ年の事業です。

次に、動物園の基本計画にかかわる施設整備事業費でございます。

一つは、ホッキョクグマ・アザラシ館の建設費です。右に青字で繰越金額7億円ほどありますけれども、今年度に全部できなかつたものですから、来年度に予算を繰り越し、28年度分と合わせて工事を一括して行います。29年度の工事完了ということで、その後にオープンを目指しております。

次に、アフリカゾーンの開業準備事業費です。これは、夏ごろの全面オープンに向けた動物の移動のための経費であり、臨時的なものでございます。

次に、類人猿館改築費は、老朽化した動物舎の改築のための基本実施設計費であり、先ほど矢野委員から話がありましたけれども、30年度の工事完了を予定しているところであります。

次に、アジアゾウ導入費ですけれども、ゾウ舎の実実施設計費、原産国でありますミャンマーとの交友事業を想定し、ここにあります2,000万円ほどの予算を立てております。

最後にカンガルー館改修費ですけれども、今年度予算を繰り越して、28年に改修いたします。

トータルでいきますと、28年度予算は総額16億円余りであり、今年度に比べますと、4億8,500万円くらいの減になりますけれども、先ほど申しあげましたように、別途、今年度予算の繰り越しとして9億円を超える金額がございますので、これも含めて28年度の事業として実施をしたいと考えております。

参考までに、基本計画による収支目標との比較を記載させていただいております。

収入関係でいきますと、先ほども話しましたが、100万人の来園目標に近い数字でしたので、当然、それに合わせ、決算見込みですけれども、入園料は22億7,400万円余りということで、目標に近いものになっております。ただし、先ほどお話し申しあげましたように、寄附金は下回っております。

それから、支出の関係です。ごらんいただきますとおわかりのように、電気、ガス、水道などの光熱水費が施設の拡充に伴い、経費が増加しております。それから、目標値の設定の時点よりも電気料金の単価が増加するなどの要因で目標値を上回っております。

維持管理費委託費ですけれども、人件費単価の増がありました。それから、エサ・薬品代については、飼料単価の高騰などによって、いずれも目標値を上回っております。

また、イベント事務費については、26年度よりは削減しておりますけれども、目標値にはまだ達していません。

支出の合計としては、4億3,700万円余りとなっていましたけれども、目標値の3億3,100万円からは、1億600万円余り上回る状況でございます。

また、基本計画では、今年度は、ここにありますように、27年度目標値では、収支差を400万円の赤字までに縮小するというような設定をしておりましたけれども、決算見込み額での収支差は1億2,800万円ということで、大きく収入を下回る状況となっております。

このあたりについては、次回の会議において、27年度の決算、28年度の予算、それから基本計画との状況を改めてご説明させていただきたいと思っておりますけれども、先ほど高井副議長からもお話がありましたように、基本計画と実態とといいますか、収支改善の取り組みと収支の状況の実績なども踏まえ、新たな基本計画を検討する中でご審議していただきたいと考えているところでございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、予算等概要につきましてご質問等をお願いしたいと思います。

○八木委員 2点ございます。

先ほど獣医療体制で増員を図ったということですが、それに相当する人件費は来年度の歳出の見積りもりのどこかに入っているのでしょうか。

また、寄附金が制度の見直しによって下がったということですが、そのかわりにサポートクラブというものができ、500円1口でチンパンジーの遊具を買うなど、さまざまな取り組みをなされてきたと思うのです。今年度にやってみて、結果的に失敗だったという結論なのか、デメリットやメリットなど、この数字から見えてくるものがあるのか、お伺いしたいと思います。

○事務局（三井経営管理課長） 最初の獣医療体制により増員されたことに関連して歳入歳出予算に何か影響があるかについてですが、人件費については札幌市全体での予算立てで、別枠にしておりますので、ここに影響することはありません。

また、寄附金についてですけれども、今までの計画における考え方として、一つのイベント、もしくは、一つの人気商品が出たときには非常に注目が集まり、寄附金などが増えたり、企業からの寄附金が増えたりすることはありますけれども、それをベースにしてどんどんと拡大させていくというような組み立てでありました。これについては次回きちんとご説明したいと思いますけれども、やはり、安定的にといいいますか、末永く動物園を応援していただくことをベースにしながらか歳入と歳出をきちんと見ていったほうがいいのかどうかと私どもとして感じているところであります。

特に、アニマルファミリー制度等々については、非常に注目をいただくということですが

けれども、私どもとしては、公営動物園として、広く多くの市民の方に応援をいただけるような仕組みのほうがいいかなということで、今年度からは一口500円といたしました。金額は少ないかもしれませんが、多くの方に応援をいただいているということで、広がりとしては非常にいいものではないかなというふうに思っております。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、私から申し上げます。

寄附金がかなり減っているのが少し気になるのですが、サポートクラブに寄附されている方々の内訳についてです。企業、または、一般の入園された方が寄附されたものなど、いろいろとあるのではないかなと思うのですが、このうちの一般の方々からの寄附はどんなものなのでしょうか。

○事務局（池田調整担当係長） 4月1日から3月29日までの状況ですけれども、3,041口、152万500円が集まっております。

アニマルファミリーのときには、一口5,000円ということもありまして、年間700口くらいが平均だったのですけれども、そういう意味では、口数は4倍くらいに増えています。

○金子議長 口数は増えたけれども、金額トータルとしてはどうですか。

○事務局（池田調整担当係長） 金額としては、平均400万円から500万円くらいの間で、450万円くらいの規模だったのですけれども、今年に集まったのは152万円です。

○金子議長 これは、毎年入らなくてはいけないのでしょうか。どういうことになっていましたか。継続してもらうような願いはするようになっていたのでしょうか。

○事務局（池田調整担当係長） サポーターになっていただいた方にはEメールアドレスをいただいて、その方にはサポーター通信という動物の近況をお知らせする通信を出しているのですが、そういう方々にはメールマガジンを配信していますので、そのメールマガジンの中で、再度のご入会をご案内することができます。

○金子議長 こういうものは、初年度は結構集まるけれども、2年目、3年目は少し減ることが結構あるのではないかなと思うのですが、具体的にはどうですか。

○事務局（池田調整担当係長） サポーター側のコストパフォーマンスからいえば、500円をお支払いただいて、12カ月、サポーター通信を受け取れるので、かなりパフォーマンスは大きいのかなと思います。ですから、今、登録をされている方は、継続していただけるものと見込んでいます。

○金子議長 実際に券を売っているところで案内は出していましたか。

○事務局（池田調整担当係長） はい。正門と西門で大きなA1判くらいの看板を出しています。また、園内各所にポスターを掲示しています。このほか、動物園センターやレストハウスのようなところにチラシを置かせていただいたりしております。

○金子議長 来ないと払えないのでしたか。

○事務局（田中円山動物園長） サポートクラブ制度については、クラウドファンディングみたいな感じで、チンパンジーのボルタリングの設置やオオカミ舎の植栽など、テーマを決めてやっていました。恐らく、課題としては、もっとわかりやすい件名というか、これならお金を出してもいいのではないかというようなことなど、新たにいろいろなことを考えるのがまずは一つかないかと思っています。

それから、寄附全般で申し上げますと、例えば、今、平成30年に予定している象の導入に向けた象舎の施設整備のための寄附です。これは、500円とかではなくて、企業にも広くお願いしたり、ふるさと納税の制度を使ってやったり、そういったような仕掛けを今後していかなければならないかと思っています。

そういう意味では、小さい魅力アップと大がかりな寄附のいただき方についても検討してまいりたいと思っています。

○金子議長 ありがとうございます。

平成27年予算と28年予算だと、1,000万円くらい下がっていますが、これはサポートクラブ云々というよりは、企業からのものですか。

○事務局（三井経営管理課長） 企業です。

○事務局（池田調整担当係長） グッズの売上げの一部をご寄附いただいているのですが、平成27年予算ベースでは、ホッキョクグマの赤ちゃん公開があって、以前の双子のホッキョクグマの公開のときにシロクマデザインのグッズが大変好評で売れまして、それに近づくのではないかという見込みでこういう予算を立てましたけれども、実際にそこまでいかなかったということです。

○金子議長 これは27年の歳入予算で、これだけ収入があったわけではないのですね。

具体的には、どれぐらいですか。

○事務局（三井経営管理課長） 平成27年度の決算見込みでは、寄附金は1,228万7,000円が今年度の実績にほぼ近いものです。昨年度よりは増えているわけですが、今回の目標は、今も申し上げたように、過去のシロクマのときの寄附金をベースにしているので、目標値がぐんと上がっているわけです。

ただ、実際には、それほどグッズなどの商品が売れなかったということで、それに伴った動物園の寄附金も、企業のグッズの売上げの低迷といえますか、それが影響して収入が少なくなっております。

○金子議長 寄附金自体は、そのグッズを除けば、例年並みなのですか。

○事務局（三井経営管理課長） そうですね。

先ほどの個人からのものでいきますと、例年450万円くらいだったのが今年は150万円と、個人ベースでいくと300万円ぐらいの減になっています。それ以外は、企業のグッズの売上げです。

○金子議長 サポートクラブでどういうふうに宣伝していくか、あるいは、寄附金をお願

いするかが課題としてあるということですね。

また、企業ベースのほうは例年と同じくらいということであれば、そちらのほうはそれなりに集まってきてはいるということなのですね。

○高井副議長 参考のところで、支出関係についてお伺いしたいと思います。

光熱費と維持管理委託費が前年度と比べて二、三割以上増えていて、基本計画における目標からかなり乖離している一方、イベント事務費は、平成26年度から見ると半額になっていて、基本計画の目標からも低い数値に設定されていますね。

そこで、まず一つ目は、光熱費や維持管理委託費は28年に二、三割が増えていますが、29年以降に節約可能なものなのか、それとも、構造的に増やさざるを得ないということ、次期基本計画でも目標値自体を考え直すような趣旨のものなのでしょうか。

それから、二つ目は、次の報告で恐らくイベントの話があると思うのですが、イベントは市民もかなり楽しみにしていますし、ここ最近の動物園の頑張りどころとしてかなり貢献があったような気がするのですが、これまでのクオリティーのイベントをここまで切り詰めた予算で実現できるのかどうか、場合によっては、目標値に合わせ、それなりの額を出すべきという考え方もあるような気がするのですが、大丈夫なのでしょうか。

この2点を質問したいと思います。

○事務局（三井経営管理課長） 1点目の歳出の関係についてです。

動物園としては、無駄にならないようにいろいろな効率化を図るということで、やれるところはこれまでもずっとこうやってきています。ところが、外生的な要因として、例えば、電気代やエサ代が高騰する、または、委託の人件費が上がるなど、経済状況に大きく影響する部分が動物園の歳出にも大きく影響しております。

これを踏まえて、今後の基本計画の見直しの際にどういうふうに見ていくかということになると思いますけれども、ただし、動物園からすると外生的な要因が非常に大きいものだということに考えているところであります。

○事務局（田中円山動物園長） 要素としては、熱帯動物館という古い施設がまだ稼働していますので、これがなくなるというのは原因要素としてあろうかと思えます。

そのかわり、ホッキョクグマ・アザラシ館、あるいは、アジアゾウの導入など、また新しい施設ができますので、増要素のほうがあります。ですから、三井から申し上げたように、次回の基本計画の検討の際にそういったようなところも踏まえた新たな目標を設定することになろうかと思えます。

○事務局（池田調整担当係長） イベント事務費についてですけれども、文房具も含め、いろいろな事務費も含まれての数字になっておりますが、イベントにかかる費用は、この中でいきますと、およそ400万円弱ぐらいの金額になります。

○高井副議長 規模・頻度が大きい割に意外に安いんですね。

○事務局（池田調整担当係長） イベントといっても、実際にイベントにかかる経費に当てているわけではなく、イベントを行うことを広報発信する動物園だよりやチラシ、ポス

ターなどを制作する費用として、およそ年間400万円弱の経費を上げております。

実際にイベントにかかる費用は札幌市の財源で支出しておりませんで、ほぼ全て企業からの協賛金で賄っております。ですから、年によって増減はあるのですが、ある程度の見込みを立て、できる範囲で、毎年、事業を組んでやっておりますので、ここの数字に影響されることなく、事業を展開することができると思います。

○金子議長 よろしいでしょうか。

○高井副議長 はい。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、今お話に出ていましたイベントに関して、ご説明をお願いいたします。

○事務局(池田調整担当係長) 冬のイベントについて、資料4-1に沿ってご説明いたします。

ここにあるのは、冬に行った主なイベント5項目でございます。

冬場になりますと、降雪期間の11月から3月までは、年間の入園者の割合でいきますとおよそ20%で、非常に集客が困難な時期であるのですが、そういうときにでも、日ごろから動物園に来られる方、日ごろから動物園に来られない方も含めて、何とか動物園にお越しいただきたいということで行っております。

資料の上から順に追って説明していきます。

まず、12月20日のサッポロ・シティ・ジャズの演奏会です。これは、クリスマスの雰囲気づくりと、音楽に関心があって、動物園にお越しただけるような方を期待しております。平成27年度は1,400人弱ほどの入園がありました。前年は悪天候もあって、694人ということでしたけれども、今年は大きく伸びました。

実際に、演奏会の会場に来られた方は300人程度でございます。

次に、12月23日の動物にエサやりのクリスマスプレゼントです。日ごろ入園者が動物に餌をあげることはあり得ないのでございますけれども、この日に限っては、中学生以下のお子様動物たちに餌をプレゼントするというイベントです。40人の募集をしまして、40人に参加していただきました。トータルの入園者としては、この日は晴天ということで、1,500人弱となっております。

続いて、正月1日から3日の入園料無料です。新年をお祝いするとともに、冬場の動物園を知ってもらいたいということで行っております。干支の縁起物などの配布を行いまして、入園者数は1万9,746人ということで、ほぼ前年並みとなっております。2日が悪天候になりましたものですから、若干下がっておりますけれども、ほぼ2万人弱の集計がございました。

続いて、1月1日から2月11日まで開催しました冬の企画展の南極・北極展です。こ

これは、南極・北極の極地の自然環境や生物のことを伝えるパネル展や標本の展示、そして今回は、南極観測隊に参加された方のトークショーを10回開催しております。トータルの入園者数は、6万7,421人です。昨年は深海生物展を行いましたけれども、1月1日から1月31日までの期間の開催で、5万3,000人でした。しかし、今年の1月は4万9,000人ということで、4,000人ほど少なくなりました。また、南極観測隊員のトークショーを開催したときに会場にいらした方は1,500人ほどです。

最後にスノーフェスティバルです。これは、雪まつり期間にたくさんの観光客に札幌にお越しいただいておりますので、その期間、動物園でもイベントを開催しております。氷の滑り台を中心に、雪だるまづくりなど、冬の遊び、そして今年からは、飼育員カフェということで、飼育員が読書をする試みも実施しております。先ほども申しましたが、前年は、7日間、入園料無料で行ってございましたけれども、今年は土・日のみの入園料無料でした。そうした結果、前年は2万1,000人でしたけれども、今年は1万5,489人ということで、5,000人ほど減少いたしております。

○金子議長 ありがとうございます。

まず、冬のイベントの実績についてご説明をいただきましたが、ご質問等はよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 ありがとうございます。

続きまして、春のイベントについてということでお願いいたします。

○事務局(柴田飼育展示課長) 資料4-2についてご説明いたします。

主なトピックとして、ボルネオオランウータンの赤ちゃんが生まれまして、3月15日から一般公開しております。すくすくと元気に成長している姿をぜひ見に来ていただきたいと思います。

続いて、飼育の日です。毎年4月19日を飼育の日と定めておりますけれども、今年は直近の休日が4月17日の日曜日ということで、この日に動物のガイドをたくさん開催する予定がございます。

また、ゴールデンウィークの4月29日から5月2日の間は、たくさんのお客様がいらっしゃるということで、特別な期間として恒例のキャラクターショー、あるいは、マルバツクイズなどのそういった催しも行います。

次のページでございますけれども、渋滞対策ということで、5月3日から5日の3日間は、ばんけいスキー場を臨時駐車場としてお借りしまして、そこからシャトルバスで動物園まで結び、渋滞対策をいたしたいと思います。また、第二駐車場も4月20日前後でリニューアルオープンすることができるかと思っております。新しい駐車場につきましては、トータル276台が収容可能です。これまでは150台でしたけれども、126台増加いたします。もし、皆様のお手元の資料の数字が違っておりましたら、トータルの駐車台数は276台ということでご理解いただきたいと思います。

○金子議長 ありがとうございます。

春のイベントにつきまして何かございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 そのほか、イベント関係についてご質問やご意見はございませんか。

○八木委員 年間のイベント計画を来年度も考えられると思うのですが、これから休園日が35日に増えるということは、もう収入減と入場者数減があきらかになっているので、無料開放というものを来年度もやるべきかどうかは一度ご検討されたほうがいいと思います。

無料開放になると、当然たくさん人は訪れます。ただ、たとえば多くの観光客が訪れる雪まつり時期に、なぜ無料で見せなくてはいけないのかが理解できません。

それをやる意味があるということであるとしても、例えば、正月にどうしても無料開放したいということになっても、動物たちにお年玉をあげましょうと募金箱を置いて、来場者に自由に好きな動物に募金してもらおうなど、赤字経営につながらない工夫は必要だと思います。

これまでは年中無休に近かったのですが、たまには無料開放もよかったです。今回からはシビアにそういったことも見直すことを一つの意見として申し上げておきます。

○金子議長 いかがでしょうか。

動物園で何か検討しているのか、とりあえずは例年どおりということでしょうか。

○事務局(田中円山動物園長) 今のご説明にもありましたが、特にスノーフェスティバルの期間中については、7日間、無料だったところを、そのうち2日間だけ無料にさせていただきました。

それにより入園者数はかなり落ちたのですけれども、そこで、無料がいいのか、それとも、有料に立ち返ったほうがいいのかをこれから検討させていただきたいと思っております。今まさしくご指摘いただいたように、新年度のいろいろな施策に反映させていかなければならないなと思っております。そういう意味で、そうした実験をこの2月の雪まつり期間にさせていただいたという次第であります。

○金子議長 ありがとうございます。

多分、これはこの場ですぐにどうこうというようなことではないと思うのですが、新しい基本計画の策定のときに、今ありました金額についても無料期間についても、安過ぎるというご意見もあるでしょうし、いや、今のままというようなことなど、いろいろとご意見があるのではないのかなと思うのです。

これについては、市民動物園会議の中で、新しい基本計画を考えるときに皆さんからもご意見いただけたらいいのではないかと思います。

ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、最後の議題になりますけれども、新着・出産・転出動物についてご報告をお願いいたします。

○事務局（柴田飼育展示課長） 2月までの分について報告させていただきます。

かいつまんで、説明いたします。

主な新着動物と出産の状況でございます。

9月にスダスローロリスが1頭生まれております。

また、9月29日に、3種類の爬虫類を充実させております。

それから、10月になります、ヒラセガメ5頭がふ化しております。これは、日本の動物園や水族館の中では当園が初となります。九つの卵が産卵されましたけれども、七つが有精卵で、それをふ化器で管理し、ふ化させました。

また、先ほども説明がありましたように、2月にボルネオオランウータンのレンボーという母親の2頭目の子どもが順調に育っております。

次に、主な転出動物と死亡の状況でございます。

8月30日にマサイキリンのナナコが誤嚥により窒息死いたしました。

それから、10月7日にニホンザルの雄のゆり太、20歳ですが、サル山の移動に伴うけがで治療中に麻酔により急性心不全により死亡いたしました。

今後、一層の健康管理や、健康ケアですとか、獣医療の充実により克服していきたいと思っております。

それから、ニホンザルですが、10月21日、24歳の雌が、それから、一番の下のほうにありますとおおり、1月12日と2月12日に死亡いたしました。これはぎん子35歳、はな子30歳と、かなりの長寿でございまして、長く生きてくれた、寿命を全うしてくれたニホンザルたちでございました。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、この件に関しましてご質問等はございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、全体を通してご質問やご意見等ありましたら、お願いしたいと思います。

○矢野委員 先ほど言い忘れたのですけれども、イベントの件についてです。

北海道神宮に観光客のバスがいつも10台くらいずっととまっているのです。北海道神宮の宮司も知っているのですけれども、どのようなジョイントのイベントになるかはわかりませんが、少しでも流してもらえればと思うのです。バス1台に50名から60名ぐらいが乗っているのですよ。ですから、その辺の企画はどうかという気がしています。数がすごいのです。

○事務局（田中円山動物園長） 十分な数ではないのですけれども、今でも、初詣期間中に動物園はこちらとか、イベントのご案内をさせていただいています。

今ご指摘のように、連携させていただいて誘客に努めさせていただきたいと思っております。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

○高井副議長 資料5の到着と転出についてです。

先ほど報告にあったヒラセガメの国内初のふ化事例は、マレーグマの死亡などが強調されてきたこの流れの中では明るい話ですよね。また、市民の中でも、象やキリンなど、大きな動物にはすごく注目されがちですが、動物園の機能である種の多様性を保存するという役割の点では、小さな動物でも希少動物でも、それを繁殖させることの意義は非常に大きいと思うので、これはしっかり広報してもらいたいのではないかと思います。

これを見る限りでは、出産と死亡が非常にアンバランスで、何か異常な事態になっているとはとても思えないので、そこは強調していいのかなと思います。

何か前に報告いただきましたが、例えば、台湾に転出させたヨウスコウワニなどもこの動物園で繁殖させたものですよね。また、それは単にこの動物園でふ化させたというわけではなくて、世界的に種の保存に国際貢献したとも言えることなので、そうした地味なものこそ、動物の大小、あるいは、人気によらず、しっかり広報していただきたいと思う次第です。

○金子議長 ありがとうございます。

プラス面はどんどんアピールしていただければいいかなと思います。

それでは、ほかにございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、予定をしておりました議事は、これで全て終了いたしました。

先ほど高井副議長からもお話がありましたとおり、この1年間は、大変大きな事故があって、事務局の皆さんも本当に大変だったと思いますけれども、皆様のご努力並びに市民動物園会議の皆様、それから、市民の皆様のサポートによって、ピンチをチャンスに変えるということで、新年度に向かって新しい動物園が作られていければなと思っております。そこで、市民動物園会議としては、動物園のサポーターとして言わせていただくところはきっちり言わせていただきたいと思います。特に、繰り返しになりますけれども、先ほどのⅡについてです。予算、組織は重要だと思うのですが、組織の改善がなければ、動物園の新しい方向性もないのかな、厳しいのかなと私自身は思っておりますので、何としてでも、動物園の皆さん、それから、市の方々に何としても頑張ってもらって、新しく、夢のある動物園になるようお願いをしたいと思っておりますし、私どももそういう方向にサポートをしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

まずは、動物園の事務局の皆さんに本当に感謝申し上げたいと思います。

どうもありがとうございました。

それでは、お返しいたします。

4. 閉 会

○事務局（田中円山動物園長） 時間を超過しましたけれども、長時間、どうもありがとうございました。今年度最後の会議を無事に終了させていただきます。

最後になりますが、私どもの方で、この年度末や、4月1日付で異動がございましたので、それをご紹介させていただきます。

○酒井みどり環境担当局長 私、酒井は、市役所で37年間務めました、明日付で定年退職となります。皆さんには大変お世話になりました。この後、環境局長が動物園の所管いたします。現在の環境局長は、谷江と申します。次回の市民動物園会議以降は、谷江環境局長が担当いたしますので、何とぞよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

○事務局（田中円山動物園長） 動物園長の田中でございます。

私も4月1日付で経済観光局に転出をさせていただくことになりました。

2年間という短い期間でございましたけれども、特に、今年度につきましては、皆様には多大なお時間を割いていただき、たくさんのご意見を頂戴し、本当にありがとうございます。

引き続き、先ほど来、話が出ている基本計画の見直し、あるいは、飼育員制度の新たな見直しにつきましては、鋭意、動物園が一丸となって取り組まなければならないと思いますので、新園長のもと、あるいは、小菅参与は引き続きいただく予定ですが、取り組んでまいりたいと思います。

例えば飼育員制度についてのご意見から一つとりますと、動物園側にとっては大変力強いサポートになりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

どうもありがとうございました。

○事務局（柴田飼育展示課長） 飼育展示課長の柴田でございます。

このたび4月で保健所に移動になります。この1年のピンチをチャンスに変えるというお言葉をいただきましたが、私自身も動物園に来られる来園者の方から多くの同じようなお声をかけていただきました。動物園のために積極的な意見をたくさんいただいて、このような形で進んでいけることを本当にありがたく思っております。

どうもありがとうございます。

○事務局（田中円山動物園長） 以上でございます。

どうもありがとうございました。

以 上

※この内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理したうえで作成しています。